

Abstract Phenomena : Eri Honda and Kenji Yamauchi 2 Person Exhibition

本多恵理・山内賢二 2人展 - Abstract Phenomena -

2017.7.11 (Tue) —22 (sat)

日、月 休廊 Closed on Sunday, Monday

12 : 00 — 19 : 00



本多恵理 Dimblue / 116.7×91.0 cm F50

YUKI-SIS

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12- #202,Nihonbashi Honcho,Chuoh-ku,Tokyo

103-0023,JAPAN +81(0)3 5542 1669

YUKI-SIS では、2017 年 7 月 11 日（火）－22 日（土）、本多恵理・山内賢二による 2 人展、“Abstract Phenomena” を開催いたします。

今回ご紹介したい 2 名の作家は、抽象表現と具象表現のはざまの感覚を捕らえた作品を作っています。

「抽象的に考える」と「具体的に考える」こと

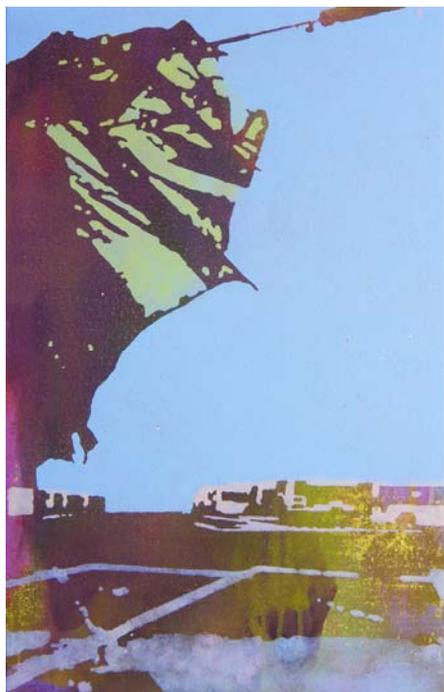
一般的に、言語としての「抽象」という意味は、「具体」「具象」の反意語として存在しています。人は「抽象的」という言葉を「曖昧なもの」「とらえどころのないもの」と認識していますが、絵画における「抽象画」とは、この表現におさまりきれません。

内部に隠れている「本質」に焦点をあてつつ、ぼんやりとした感覚から目に見えるものの方へと誘うような表現は、色や構図など、絵画的な要素が加わることにより、観る人の中の記憶や残像へと繋がっていきます。

「抽象的」に思考することと「具体的」に思考すること。そこには言葉にできない空間・事象があります。

本多恵理と山内賢二の抽象と具象を行ったり来たりする「アプローチの仕方」は異なるかと思います。ただし、2人の作品に共通している「既視感」という捻じ曲がった時空間は、「具体的」な事象よりも、もっと自由で、もっとフレキシブルに、観る人との調和を生み出すようです。

YUKI-SIS では初めてのご紹介となる2人の作品を、ぜひたくさんの方にご覧いただきたく思います。



山内賢二 Trip Sky/ 2013/ acrylic on cotton mounted panel/ 66.5×42.0cm

本多恵理 Eri Honda

目に焼き付けたかった景色と想いを回想し再現するかのように色を重ねていく。漠然とした色や形は、彼女の記憶の残像とともに、抽象的な現象と現実の景色とをゆっくりと行き来するようだ。



本多恵理 芽 / Oil on Canvas /22.0×27.3 cm F3

■ 略歴

1988年 多摩美術大学 油画専攻卒業

1990年 多摩美術大学 大学院修了

■ 個展

1989年 なびす画廊

1996年 ガレリアグラフィカ bis

1997年 三木ギャラリー (91年、90年、88年、87年)

1998年 ガレリアグラフィカ bis

2001年 ガレリアグラフィカ bis

2003年 ガレリアグラフィカ bis

2004年 ギャラリー樫 GT 2 (05年)

2006年 ガレリアグラフィカ bis

2007年 日本橋高島屋

2009年 ガレリアグラフィカ bis

ジャック&豆の木 (鎌倉)

2011年 ガレリアグラフィカ bis

2013年 Art Sea (茅ヶ崎)

2014年 ガレリアグラフィカ bis



本多恵理 雨のあと / Oil on Canvas /45.5×38.0 cm F8

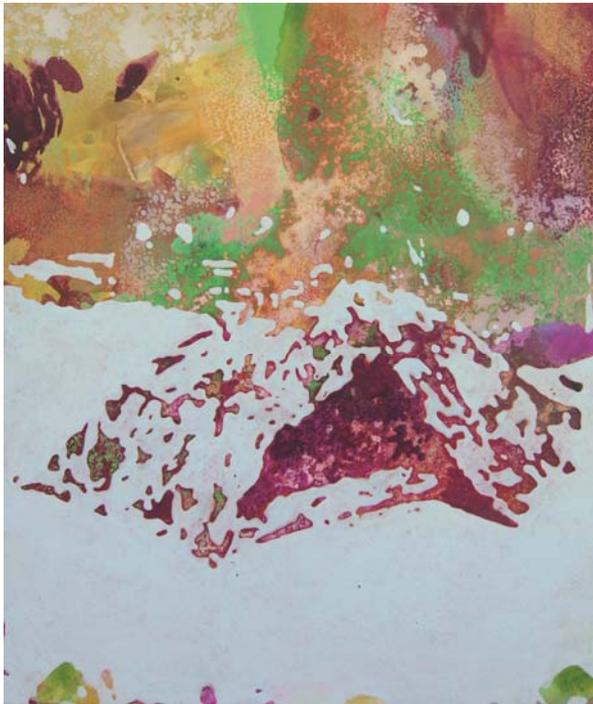
■グループ展

- 1986年 2人展 (オリエント画廊)
グループ展 (ギャラリーフロイデン・東京)
- 1987年 神奈川県美術展～89年
新制作展 (東京都美術館 東京)～89年
- 1988年 新制作神奈川グループ展～90年
3人展 (なびす画廊 東京)
史水展 (スペース21 東京)～90年
表現の現場展 88年 (多摩美術大学)
- 1989年 ジャパン大賞展 (洋協ホール 東京)
- 1990年 グループ展 (世田谷美術館 東京)
- 1991年 フィラン大賞展準大賞(ブロードウェイギャラリー)
- 1992年 フィラン大賞展招待作家 (ブロードウェイギャラリー)
21世紀の騎手 1992展 (シドニー・マンリー美術館 松坂屋)
日本画廊協会展 (東京セントラルアネックス)
- 1993年 フィラン大賞招待作家展 (ブロードウェイギャラリー)
21世紀の騎手 日本の絵画展 (松坂屋)
- 1995年 エコールドパリ展 (ブロードウェイギャラリー)
- 2009年 アーカイブス展 (銀座シンワアートミュージアム)
- 2012年 史水展 (銀座アートホール)
多摩美術大学神奈川支部 (フェイアートミュージアム横浜)
- 2014年 海テーマ展覧会 (art Sea 茅ヶ崎)
- 2016年 8Seas+ (art Sea 茅ヶ崎)

■その他

1988年 池坊華道の表紙（年間掲載）
2007年 ザ・リッツカールトンホテル六本木（3点）
2011年 ギャラリー椿チャリティーオークション参加

山内賢二 Kenji Yamauchi



山内賢二 誰かのポートレート(someone's portrate)/ acrylic on cotton mounted panel/ 45.7×38.1cm

【Artist Note】

朝。袖も首も通し終えた後にとらわれる得も言えぬ奇妙な、あの感覚。

うしろまえ。軽い自責の念に駆られるより先に、見慣れたはずの光景が普段より少しだけ姿を変え眼に映ることに気づく。

意識/存在、既視感/未視感、主観/客観、地/図などなど。これらの「あいだ」に介在し、決定へと導かれる条件を問い直すこと。

取るに足りない日常の断片を画面上に集め、再構成することによって、自明化した言説や制度、一義的な読解を不可能にすることを目指している。

たとえば、それは「間違える」ことをよしとしない社会の不寛容さを解きほぐす為。或いは「曖昧なものがあるからこそ、確かめなくなる」という心理を呼び覚ます為。

夜。部屋の明かりを落す瞬間、同時に全てが消えてしまうのでは？と不安になる。しかしそれでも、今いる場所は「幻じゃない」と信じ続けたい。

山内賢二

■ 略歴

2004 創形美術学校ファインアート科絵画造形専攻卒業(創形賞)

2005 創形美術学校研究科絵画造形課程修了

■ 個展

2016 "まぼろ視 "藍画廊 東京

2015 "こそあど "藍画廊 東京

2014 "またたび "藍画廊 東京

2013 "ウシロマエ "藍画廊 東京

2012 "きんじょのきんじょ "藍画廊 東京

2011 "よそみのはて "藍画廊 東京

2010 "1mノ旅 "藍画廊 東京

2008 "山内賢二展 SAN-AI GALLERY "東京

2006 "山内賢二展 SAN-AI GALLERY "東京



山内賢二 Bucket/ 2013/ acrylic on cotton mounted panel/ 59.0×41.0cm

■ グループ展

2017 " 神奈川県美術展 "神奈川県民ホールギャラリー

" 大田市国際美術交流展 "大田中区文化院 大田/大韓民国

2016 " 大田市国際美術交流展 "大田中区文化院 大田/大韓民国

2015 " 大田国際アートショー "大田貿易展示館 大田/大韓民国

" 大田市国際美術交流展 "大田中区文化院 大田/大韓民国

" One Corner and Space "ギャラリー白線 東京

- 2014 " 凹地第三回企画展 new ground "遊工房アートスペース 東京
" Pureism -Asagaya Art Street 2014 "東京
- 2013 " 佐藤イチダイ・山内賢二 展 SAN-AI GALLERY "東京
" 記憶 SAN-AI GALLERY - vol.15 - "東京
- 2012 " 記憶 SAN-AI GALLERY - vol.11 - "東京
- 2011 " 記憶 SAN-AI GALLERY - vol. 7 - "東京
- 2009 " 佐藤イチダイ・山内賢二 展 SAN-AI GALLERY "東京
- 2007 " 記憶 SAN-AI GALLERY - vol. 3 - "東京
" トーキョーワンダーウォール "東京都現代美術館
- 2006 SAN-AI GALLERY " New Yearning "東京
- 2005 " あおぞら DE アート "銀座泰明小学校 東京
" SAAD SELECTED "スパイラルガーデン 東京
- 2004 " SAAD SELECTED "スパイラルガーデン 東京
- 2003 " 現代アーティストセンター展 - Power Relationship - " 東京都美術館